

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

株式会社広島メタルマシナリー 広製作所

(2) 事業所の所在地

広島県呉市広白岳1丁目2番43号

(3) 業種

製鋼・製鋼圧延業

2 計画の期間

本計画の期間は、平成18（2006）年度を基準年度とし、平成28（2016）年度から平成32（2020）年度までの5年間とする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度実排出量 (a)	目標年度 上段：見込量 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：実排出量 (d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))				
			平成18年度	平成32年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
エネルギー起源CO ₂	94,279.6	92,394.0 (2.0)	95,165.0 (0.9)	100.0	100.0	100.0	100.0
非エネルギー起源CO ₂	44.6	(100.0)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
メタン		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一酸化二窒素		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他温室効果ガス		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス実排出量総計	94,279.6	89,427.0 ▲ 5.2	95,165.0 ▲ 0.9	100.0	100.0	100.0	100.0
温室効果ガスみなし排出量							
実績に対する自己評価	エネルギー起源CO ₂ の排出量は、基準年度比0.9%増、前年度実績(90330)比5.4%増。得意先事情による生産量の減少と長期間の定期修理発生が要因で操業の不効率になった。						

※ 削減率 (c) = ((b) - (a)) / (a) × 100 削減量の対基準年度比 (e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

温室効果ガスの種類	基準年度の実績 (a)		目標年度 上段：目標 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：原単位実績 (d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	平成	年度		平成32年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
エネルギー起源CO ₂			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非エネルギー起源CO ₂			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メタン			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
一酸化二窒素			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他温室効果ガス			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
温室効果ガス排出量総計			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)				198.2				
実績に対する自己評価								

※ 削減率 (c) = ((b) - (a)) / (a) × 100 削減量の対基準年度比 (e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	燃料使用量の削減	原油換算 240KL/年 減	①操業終了後の節電対応と操作性改善 ・照明、冷却水ポンプ適正運転、集塵機、P S A ・C C 鋳込み終了後のエア一圧力管理5.3K→4K ②電炉溶解エネルギーの節減 ・LNG節減 ▲0.7Nm ³ /t (対H24年度) ③工場圧空使用量削減 ・電力原単位▲2KWH/t (対H25年度)
2	電気使用量の削減	原油換算 38.7KL/年 減	①エアコンプレッサーの省エネ対応(ロスの圧縮) ・エア一漏れの調査と補修 概算 60万 ②天井灯のLED化(1kwh→130wh) H29年度50個LED化
3			
4			

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み(環境価値の活用等)

	種類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組み

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	廃棄物排出量の削減	・コピー用紙使用量を1%削減	・両面コピー、裏面利用 ・分別収集及び資源化の徹底
2	リサイクル率の向上	・リサイクル率を1%向上	・郵便封筒の社内再利用 ・リサイクル品の全品回収
3	その他		・月1回の敷地外の清掃奉仕活動の実施 ・公共交通機関の積極利用

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。